

## 小川 幸姫さん

私はこの度、令和8年度大阪市教員採用試験にて中学・理科にて合格することができました。私は大学推薦をいただき1次試験が免除になりましたので、2次試験の専門科目と面接のみの受験でした。対策としては専門科目は過去問を少し解く、面接も対策講座に一度出席し過去に実際に出た質問を見た位で、あまり参考にならないかと思しますので、面接練習で意識したところ、私の教職において大学生活の良かった点と悪かった点、最後に伝えたいことの3つに分けてお話しします。

初めに私が面接練習で唯一意識していた事は「私ならこうする」という考えを持つことです。面接練習に限らず、誰かが質問されている際に私なら何と答えるか考える癖をつけました。そして他の人が答えた内容を自分の考えに組み込んだり、反発したりしてアップデートしていました。人の意見を聞くだけでなく自分で考える機会を増やすことが大切かと思えます。

次に教職における大学生活の振り返りです。

まず良かった点は大学の講義を聞いていた事です。大学の講義には興味深い内容が沢山あり、中には未だに覚えている内容、人に共有した内容もあります。自分が興味を持つことで、人に教える際に興味を持って貰えるような話ができると私は考えているので、大学の講義を聞いていて良かったです。

次に悪かった点についてですが、圧倒的に勉強量が足りない事です。模擬授業を作るにおいて授業内容の知識があることは最低限必要かと思えますが、私には足りない知識が多く、勉強して理解するところから始まります。その為、教え方の工夫や豆知識などもっと考える時間が足りず納得いかなかったりもよくありました。教員免許を取ると決意したのなら科目の勉強はしておくべきでした。

最後に、この4年間教員免許を取るために様々な苦労がありました。教職の授業が増え、学科と合わせて1限から5限までの日もあり、課題もその分増えました。途中で諦めた人も見ましたし、免許を取って教員を目指さない決断をした人もいました。脅すわけでは無いですが、生半かな気持ちで取ると痛い目にあいます。

正直なところ私も3年生ぐらいまで教員になるかどうか決めきれずにいました。教員というのは責任が重く仕事量も多い、本当にやりたいのか分からなくなる時がありました。しかし子どもの時に先生になりたいと願った夢を叶えたいという一心で教職課程をとり、教員採用試験を受けました。皆さんも今一度なぜ教員免許が欲しいのか考えてみてください。

長々と書きましたが、ひとつの例として目を通して参考にしてくれる人が少しでもいたらいいなと思います。これを読んでいる皆さんが教員に関わらずやりたい事を見つけ、その夢を叶える事を願っています。大学生活楽しんでください！